笑顔と心をつなぐネットワーク はーとふる

HEARTFUL

2023年 春号

特集

あなたにとって「明るい社会づくり運動」とは？

連載

ふるさとわが街

明るい社会 いきいき づくり運動

理事長就任のご挨拶

大石 雅也

特定非営利活動法人　明るい社会づくり運動　理事長

このたび、特定非営利活動法人明るい社会づくり運動（以下明社運動）の理事長に就任いたしました。秋葉忠利前理事長から引き継ぐ事となり責任の重大さに身の引き締まる思いです。

皆さまご存じのとおり、明社運動は１９６９年に庭野日敬師によって提唱され、発足から54年が経ちました。現在、全国で４００を超える地区組織が地域のニーズに合わせて活動を展開しています。

しかしながら、２０２０年春から新型コロナウイルス感染症拡大のため活動を自粛せざるを得ない状況が続いてきました。そうしたなかでも、密を避け、それぞれが自分のできることに取り組んできました。

私ども明社運動は昨年11月に「ＳＤＧｓ活動の日」を設け、全国の地区組織の方々と共に〝持続可能な開発目標〟の一つとして、環境美化などに取り組み、大いに力を発揮していただきました。小さな一歩でも、その積み重ねがＳＤＧｓの達成につながることを信じています。

提唱者のお言葉に、「明るい社会は、手をこまねいて得られるものではない。誰かがつくってくれるというものではない。気の付いた人、目ざめた人がまず立ち上がって行動を開始し、他の人々にも根気よく呼びかけていかなければならないと」とあります。

私は理事長就任にあたり、皆さまと共に考え、よりよい活動へと進んでいけるよう未来を見据え、微力ではありますが足元にしっかりと力を入れて進んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

Contents

はーとふる2023年 春号

【目 次】

1……特集　あなたにとって「明るい社会づくり運動」とは？

10……Photoりぽーと　「子どものためのSDGsセミナー」開催

12……Palネット

13……誌上名刺交換

14……「未来へ続く地球社会をめざして――クリーンUP！ 2023」実施要項

16……ふるさとわが街

17……掲示板

耀！ 連隊 明社レンジャー

特集

あなたにとって「明るい社会づくり運動」とは?

2019 年に「明るい社会づくり運動　提唱 50 周年記念大会」を開催して早 4 年がたちました。その間、新型コロナウイルス感染症の拡大によって活動の自粛をするなど、思うような活動展開ができなかった状況でした。来年は提唱から 55 年になります。困難な状況を乗り越え、これまでの積み重ねがさらなる発展につながることを願っています。

今号では、これまでの歩みを振り返るとともに現在の活動を8人の方に紹介していただきます。

善意の心がふれ合う場に

北海道

明るい社会づくり運動旭川地区推進協議会

大谷 幹夫

「社会のために自分は何ができるだろう」と、２００８年、明るい社会づくり運動旭川地区推進協議会に入会させていただきました。今年で15年になります。

旭川明社は、「家庭教育」（学習会、研究会、講演会・研修会への講師派遣）、「きたの拓塾」（地域で活躍している方を招いての講演会）、「ゴミ拾い」（１００万人のゴミ拾い）を中心に活動していました。

ゴミ拾いの際、私はいつも収集運搬リヤカー担当でした。夫婦、親子連れ、孫とおばあさんなど、皆さんの和気あいあいと清掃している様子を拝見しながら、交通安全・事故防止を心がけ、最後尾を行進することが例年の活動でした。

仁木英雄会長の就任に伴い、明社のメイン活動の一つとして、旭川交響吹奏楽団の協力を得て「ファミリーコンサート」をスタートさせました。小さな子ども連れ大歓迎の音楽会で、市民と共に明るい社会の実現を目指す活動です。第１回の開催は２０１４年２月23日のことです。

乳幼児を連れたお母さんのため、会場とは別室に託児所を設け、また、災害見舞等支援のため、募金箱を設置し、寄付金のご協力をお願いしています。入場者の安全を配慮して、会場案内、警備、ドアの開閉など、円滑な会場運営をサポートしてきました。年々回を重ねるたびに、市民の期待も大きくなり、大盛況です。

今年は６月25日に「第９回ファミリーコンサート」を開催する予定ですが、例年通り募金箱を設置し、市民の期待に応えるため、楽しくかつ安全な会場づくりを目指します。

市民・地域の皆さんと、善意の心がふれ合う場を広げる、そんな活動を続けていきたいと思います。

大雪山

私の活動起点

埼玉

埼玉県協議会　専務理事兼事務局長
伊藤 信明

埼玉県明社では、提唱3年後の１９７２年に埼玉連合会を設立しました。5年後には埼玉県統一運動を「ノーポイ運動」と決定し、創作品展示会を開催。ノーポイ運動は全国に展開されました。

また青年委員会を設け、共に運営しながら人材を育成し、実践的に学びつつ、継承がなされてきました。私の活動起点も青年委員会でした。

第４回全国大会（１９８７年）では、この青年委員会が舞台の裏方役を担いました。私も控室での役を頂き、提唱者・庭野日敬師の澄み切った鋭い眼光と威厳のあるお姿に圧倒された記憶があります。

大会テーマ「拓（ひらく）」を象徴とした全国拓塾が開塾され、私は2期生として学びました。これらの経験を活かし、１９９３年には地方拓塾の「さきたま塾」を開講しています。その後30余年が経過した現在も、当時の運営委員や塾生の多くが自分事として運動を担っており、改めて人材育成の重要性を感じます。

私は拓塾での合言葉「知行合一」「ローカルにしてグローバル」をテーマに、世界平和を共に担える「縁づくり」を基軸とした運動を目指しています。

そして提唱から54年目にあたり、活動そのものも尊いけれども、運動の目的と手段、着地点と現在地を再確認し共有を図ること、更には運動の成果を確認し合う空間づくりが肝要と考えています。

新型コロナウイルスや紛争による経済変化を通じて、私たちは、世界が「諸法無我」であること、利他の精神が不可欠であること、多様性を認め合い共存を探ることを知りました。

今こそ提唱者の想いを継承し、更なる「明るい社会づくり運動」の展開が求められていると考えます。

宮城県南三陸の仲間とともに

歴代会長にお仕えして

東京

北区明るい社会づくりの会　事務局長
丸山 隆司

北区明るい社会づくりの会は１９８２年に発足し、人さまのお役に立ちたいという多くの会員さんと共に私は事務局スタッフとして当初から活動に参加して参りました。歴代の会長は人格円満で偉ぶったところが全くなく、私達若い事務局スタッフを温かく見守ってくださいました。

初代・延島建市会長（元北区医師会会長）の時にはアフリカ難民救済スポーツエイドを開催し、全国紙一面にも取り上げて頂きました。

二代・安孫子清水会長（元都議会議員）の時はクリーン&グリーンキャンペーンを開催、後に区内ボランティアの７団体も参加し、エコロジーキャンペーンへと発展しました。

三代・小山宙丸会長（元早稲田大学総長）の時に９・11米国同時多発テロが発生し、「テロの背景には無教育による貧困がある」との小山会長の警鐘によりアフガニスタン教育支援募金活動（チャリティーコンサート事業収益含む）を東京西北地区の明社さんと共に数年にわたり実施し、バーミヤンに「希望小学校」を建設しました。また、生涯教育の重要性を説かれ、雑学大学を開校し、現在も月１回、様々な講師を迎え興味あるテーマで開講しています。

現在は峰田将会長（元北区助役・元聖学院中高校長）ですが、東日本大震災発生直後から駅前街頭募金を５年にわたり月１回実施し、峰田会長自ら直接、被災地に何度も義援金を届けてくださいました。

グローバル（世界的規模）に考え、ローカル（地域）で行動することの大切さ等を歴代会長から学んだことが私の明社活動の指針となっています。

笑顔で明るく、地域の人々と共に

富山

明るい社会づくり高岡市民会議　代表
成瀬　宜史

『伝統と革新　広げよう若い力と共に　あなたとつくる笑顔の輪』をテーマに、提唱50周年記念大会が盛大に行われてから、早いもので4年が過ぎようとしています。

大会では、心の豊かさや、真心から奉仕活動に取り組む姿勢、また、ゴミをポイ捨てしない心と「ありがとう」の大切さについて学びました。特に、砂川元理事長が言われた、「正しく小さな行動が大きな勇気に繋がることが明社活動の原点だ」という言葉を聞き、高岡明社一同、心を一つにした次第です。

高岡明社は、発足した１９７１年から今日に至るまで、安全で明るく豊かでみんなが住みよい社会をつくるために、「感謝」「奉仕」「素直」「謙虚」「反省」の心を大切にし、地域の人々と共に活動を進めております。

明社運動の根本精神は、清掃やゴミを拾う奉仕の心と併せて、ゴミをポイ捨てしない心を育てることです。そこで高岡明社は、地元の人々に美しい街づくりの主体となってもらえるよう高岡市の協力を頂き、現在では、学生、市民、会員が一体となって清掃美化活動に取り組んでいます。

また、高岡明社は、一昨年、「富山県ＳＤＧｓ宣言」「たかおかＳＤＧｓパートナー」に登録して、「海の豊かさを守ろう」という目標達成に向けて活動しています。その一環として、地元の学生達からポイ捨て禁止ポスターを募集し、作品を各所に展示して多くの市民に見て頂きました。さらに、優秀作品を印刷し、富山県発行の不法投棄防止ビラと併せて高岡駅構内で配布して、ポイ捨て禁止を呼びかけました。

高岡明社はこれからも、笑顔で明るく、地域の人々と共に、できるところから明るい社会づくり運動を推進して参ります。

地域の人たちとの心のふれあいを大切にしながら

三重

安濃町明るい社会づくりの会　会長　小柴 正信

早いもので、安濃町明るい社会づくりの会も、今年で発足30周年を迎えます。安濃明社の「会の趣旨」の中には、提唱者のお言葉からいただいた「物、金だけではこの世の中をよくすることはできません。人は誰でも心に秘めた良い心を持っています。……全ての人間が持っている善意を結集し……」の精神が受け継がれ、この言葉を胸に会員の皆さんと明社運動を行ってまいりました。

歴代の会長さん方が、安濃町全体で活動が出来るようにと、安濃町の自治会を回り、それぞれの自治会から会員を募りました。お陰さまで、神社清掃、カーブミラー清掃など地域に密着した活動や、花火大会、体育祭後の清掃など行政の行事に協力した活動を行うことが出来ました。

振り返ってみると、さまざまな明社運動を行う中で、運動に参加していただく皆さんの笑顔に支えられた30年でした。

コロナ禍で、行政のイベントが全て中止になり、明社でも感染拡大防止のため活動を縮小してきました。農村部の私の町の安濃町でも年々、人間関係が希薄になってきたと感じていたのですが、コロナ禍で、一層感じるようになりました。明社運動で集まって活動し、成果を喜び、清々しい笑顔で話のできることが、いかに大切だったかを感じる次第です。

会員同士や地域の方々との心のふれあいを大切にしながら、今後の明社運動を進めていきたいと考えています。

活動が〝絆づくり〟に

香川

明るい社会づくり運動さぬき
寺嶋 宏明

走馬灯のごとく過ぎ去っていった明社活動の54年間を振り返ると、その原点は、昭和44年4月27日に香川県高松市で行われた「明るい社会づくり運動四国地区推進大会」で、提唱者である庭野日敬師を車で送迎するお役をいただいたことです。

庭野師は講演の中で、「物で栄え、心で滅ぶ世の中にしてはならない」というお話をされ、それが今も心に残っています。

香川県における明社活動はその後、紆余曲折を経て、現在、「家庭教育講座」「灯篭流し」、そして高松市のボランティア清掃活動への参加を主な活動としています。今後は、総本山善通寺の前管長・樫原禅澄師を会長に、社会情勢に合わせて継続可能な活動をしていきたいと話し合っています。また、近年は都会のみならず、地方社会でも人のつながりが薄れていますが、明るい社会づくり運動が〝絆づくり〟の一助になれたらとも考えています。

全国で初めて明るい社会づくり運動の大会が開かれた土地で運動を展開する一人として、誇りをもって、これからも地域のために取り組んでいく所存です。

総本山善通寺

コロナ禍だからこそ大事にしたいこと

広島

広島市中区明るい社会づくりの会　事務局長
木下 百合子

「うつくしの杜（もり）　こども食堂」の活動を開始して4年が過ぎました。不安だらけの日々でしたが、地道に活動を続けてきました。

当初は、参加するお子さんたちみんなで食卓を囲んでいましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、スタッフみんなで考えた結果、弁当を持ち帰ってもらうことにしました。

そうした形での「こども食堂」ですが、お子さんと一緒に来られる親御さんたちは、「弁当をもらって帰ると、家族の団らんが持てて心が和みます」「食事の時間を大切に過ごせます」「いただいた弁当のお料理を真似て作るようになって、いつもワンパターンだった食事が変わりました」「とにかく料理がおいしい」などと話してくれて、会話も弾（はず）みます。

また、今年2月のこと。幼児から高校生まで7人きょうだいのお兄ちゃんが、弁当を受け取りに来ました。話を聞くと、お母さんが8人目の赤ちゃんを出産して来られないので代わりに来たと言うのです。その話を聞いた私たちスタッフは、「おめでとう！　お祝いにお母さんにお弁当をあげて！」と言って差し上げて、喜び合いました。

こうした目の前の一瞬一瞬を大事にしながら、丁寧（ていねい）に心の交流を育んでいくことを心がけています。

私たちの「こども食堂」には、地域センターをはじめ他地区の明るい社会づくり運動の方たちなど多くの方から、お米や野菜、お菓子、浄財の支援が届きます。そんな支えが、私たちスタッフの力となり、元気で楽しく、生き生きと取り組むことができています。

アフターコロナでは、お子さんたちが安心して話し、笑い、戯（たわむ）れることのできる食堂になることを願っています。

清掃活動に目覚めた私

山口

岩国明るい社会づくりの会
藤本 徳彦

私と明るい社会づくり運動との出会いは、30歳の時に先輩から清掃活動に誘われたのがきっかけでした。しかし、時がたつにつれ参加者が少なくなり、休止状態になりました。

清掃活動に目覚めた私は、何とかみんなで一緒に清掃したいと思いましたが、気持ちが前向きにならず悶々（もんもん）として時を過ごしていました。ところが、十数年前、そんな私の気持ちを揺り動かす、ある青年が現れました。青年の家の前を毎日、年配の方が清掃している。その姿を見た青年は、みんなで一緒に清掃が出来ないかと提案し、岩国の観光名所で清掃活動をたくさんの方と実施したのです。そこに私も参加して清掃の清々しさを味わい、感動して、その後2年間、一人でゴミ拾いをさせていただきました。

ある風の強い日、吹き溜まりにたくさんのゴミが集まり、塊のようになっていました。それを見たとたん、私はやりきれない気持ちになりました。

愚痴・不平不満を言っている私の姿が、吹き溜まりのゴミと重なり合いました。その後、私はゴミ拾いを通して、自分の気持ちと向き合いました。そして、気付きがたくさんありました。「清掃は素晴らしい活動だ、みんなと一緒に活動できないか」と思い、知人に声をかけて、今では30数名の方が2箇所に分かれ、毎月1回第4日曜日に清掃活動を行っています。

私事で恐縮ですが、60歳で大腸癌になり、以来68歳になる現在までに4度の転移、2週間に一度の抗がん剤治療をしております。清掃活動時に見知らぬ人に大きな声で挨拶する、そんな出会いが私にとって最高の治癒薬です。

私を支えてくださっている多くの方に感謝し、これからも地域社会に明社活動が根付くように努力していこうと思います。